

30年の歩み

神を敬い人を愛するキリスト教精神を中心とする中学校と高等学校から大学へ一貫した男子中心の学院を願ひ、昭和三九年四月に開学しました。場所は、東区大幸町現在の名古屋学院高等学校。第一回入学生二四七名が、希望に胸をふくらませ、スタートしたのです。

四十年度は三九〇名、四一年度は七三五名に、学生も増え、また、商学科が新設され、大幸学会ではより充実した大学にするため

▼瀬戸の丘陵地に建設中の新学舎



には、少し手狭なため、名古屋学院創立八十周年を機に、昭和四三年瀬戸へ移転することになりました。

瀬戸市街を通り抜けた、見渡すかぎり山林におおわれた丘陵地。その景観の良さと空気のきれいな

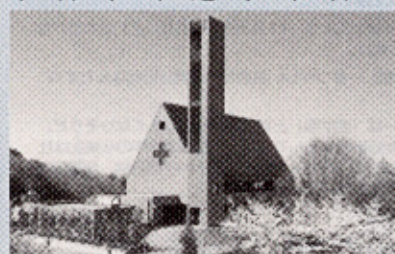
▼開学当時の学舎



ことは、学園にとつてはまさに理想的な環境でありました。

学生の数も増え、大活動も順調に進みかけた矢先、その頃、全国的に学生運動が激化してきており、本学の学生自治会も自然にその影響を受け、ついに、昭和四四年九月二九日に、六合館の閉鎖という事態を起こしたのです。しかし、数日で自主解除し機動隊の導入もなく十月十三日から授業は再開されましたが、四五年、四六年、四七年と入学志願者は減少し、大学としては暗い時期でした。

そんな苦しい時を乗り越え開学十年目を迎えた四八年度から、学



▲大学内のシンボル「アバル」

御挨拶

同窓会会長 占部憲一



暑い夏が過ぎ、同窓生の皆様におかれましては、ますますお元気でご活躍のことと推察いたします。

昨年度は、創立三十周年ということで、大学は記念祝賀会及び記念講演、一人芝居などさまざまなイベントを行ない、同窓会は、三十周年のご来賓、教職員、学生及び同窓生の交流会を開催いたしました。先生方やゲストの方と同窓生、学生が楽しく歓談され、非常になごやかな雰囲気うちに開催することができました。

さて、我々同窓会も、本年度新たに一千百名の卒業生を迎え、二万二千名を越える会に成長してまいりました。私は、昨年の秋より何もわからないまま同窓会長に就任いたしました。が、ようやく同窓会の行なうことができ、ようやくかけ

本年度の方針といたしまして、大学の執行部や関係各所とのコミニケーションを良く取り、協力関係を強化していきたい、また、各クラブのOB会との連携も強化していきたいと考えております。

今年、例年通り大学祭に合わせ、ホームカミングデーを開催いたします。キャンパスまではちょっと遠いと思いますが、大学祭のイベントを楽しみながら、新しくなった大学の姿を見て、旧交を温め合っていただければ幸いに思います。

本年度も、同窓会の活動にご理解、ご協力を賜われますようお願いいたします。

